

## 5分でわかる自動車事故事例 No.7

# 交差点での直進車と右折車の事故

ルールを守り、「かもしれない運転」の徹底を！

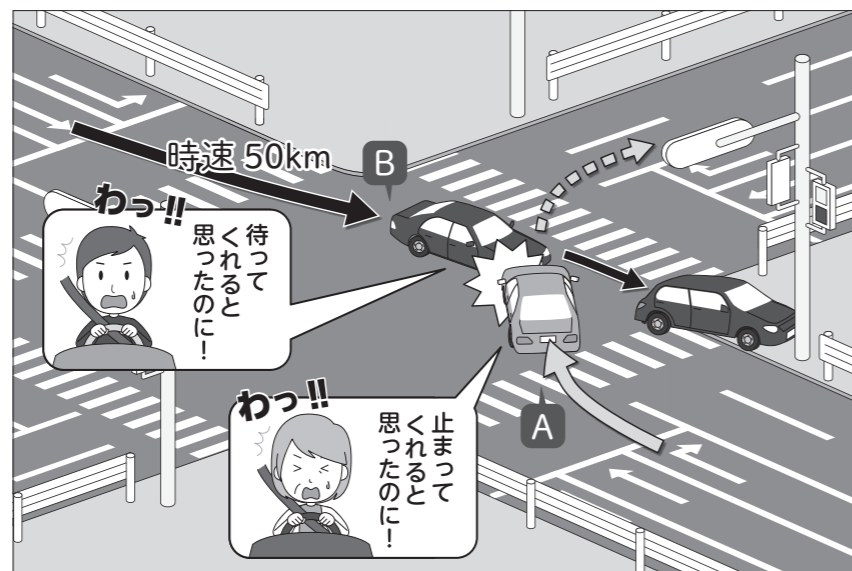
### 事例プロフィール

事故類型：相互車両  
発生日時：日中

Aさん  
軽貨物車  
60歳代女性



Bさん  
普通乗用車  
20歳代男性



### 事故の概要

#### Aさんの状況

Aさんは、道路を走行中、信号機のある交差点で右折するため右車線に入り、低速で進んでいました。その時、前方の信号が青から黄色に変わったので、前方から来るBさんが見えたのですが「停止するだろう」と思い込み、交差点の中心をかなり内側にショートカットするような右折をし、交差点に進入してきたBさんと衝突しました。

#### Bさんの状況

Bさんは、前方で右折しようとするAさんと、交差点直前で信号が黄色になったことを認識していました。しかし、制限速度である時速約40kmを10kmほどオーバーして走行していたこともあり、止まれないと判断し、そのままの速度で交差点に進入しました。その時、止まってくれと思っていたAさんが右折してきたため、急いでブレーキをかけたのですが間に合わずに衝突してしまいました。

### 事故から学ぶ

交差点で右折や直進をする時は、右折のルール、直進のルールをよく理解し守ることが大切です。また、お互い相手の行動を「〇〇するだろう」と思い込み、判断を間違えてしまわないようにすることで、相手が違反をした場合でも事故にならずに済むことがあります。

今回の事例でも、Aさんが交差点中央まで徐行し、Bさんをやり過ごしてから右折を開始していれば事故は起きませんでした。また、Bさんが制限速度を守り交差点手前で停止していれば、事故は起きなかったかもしれません。

違反を起こさないように気を付けることが第一ですが、相手が違反をしても事故にしない「防衛運転」が大切です。「だろう運転」ではなく緊張感を持った「かもしれない運転」をすることで、事故を防げるのではないのでしょうか。

(出典) 公益財団法人 交通事故総合分析センターの資料をもとに、ユニバーサルリスクソリューション(株)が作成

## 5分でわかる自動車事故事例 No.8

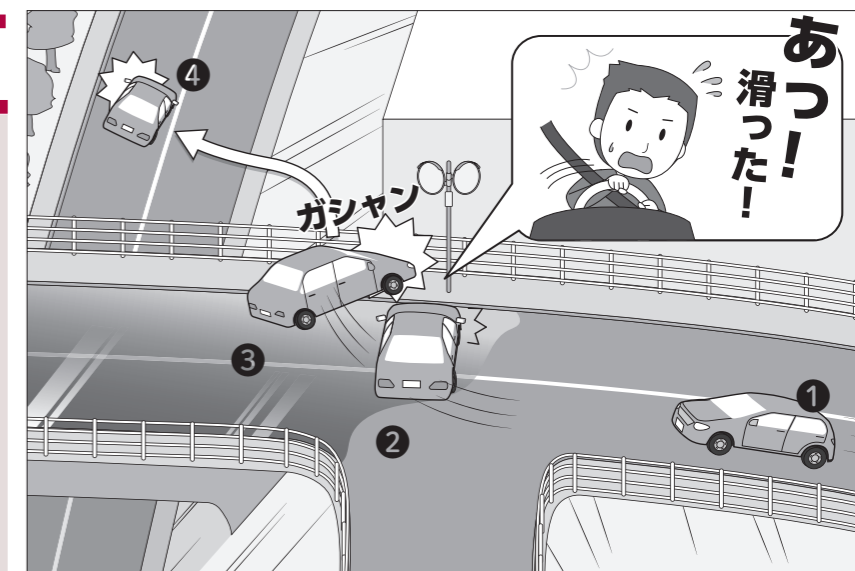
# 路面凍結によりスリップした普通乗用車の単独事故

早朝や橋梁、気を付けて！冬場の思わぬスリップ事故

### 事例プロフィール

事故類型：単独事故  
発生日時：2月 早朝 霧

Aさん  
普通乗用車  
30歳代男性



### 事故の概要

#### Aさんの状況

Aさんは、出勤のため通い慣れた道を走っていました。しばらく走った所で他の道路と立体交差している橋梁を上りはじめました。その時、突然車のコントロールを失い、対向車線にはみ出したと思ったら対向車線側に設置されたガードパイプを突き破り、8m下の道路に落下しました。

Aさんは、少し寒かった気がしたが、路面が凍るほど寒いとは感じず、まさか凍結しているとは思わなかったと話しています。

### 事故から学ぶ

この事例は、冬場、橋梁の路面が凍結した所でタイヤがスリップしてコントロールを失い落下した事故です。一般的に、高架構造の橋梁上の路面は、地熱などが無いため、ほかの路面に比べ凍結しやすいと言われています。そのことを知っていて、より慎重な運転を心掛けていれば今回の事故は起きなかったかもしれません。

危険を予測することは、事故を起こさない有効な手段になります。しかし予測するには、ある程度の情報や知識が必要です。日頃から交通事故のニュースや情報などに興味を持ち、なぜ危険なのか、どう対処すべきかを考える習慣を身に付けることが、危険予測に役立つものと思います。

(出典) 公益財団法人 交通事故総合分析センターの資料をもとに、ユニバーサルリスクソリューション(株)が作成